

(8) 近 畿



近畿地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)。

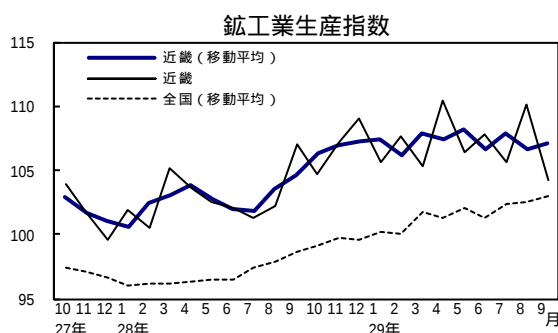
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
鉱工業生産	持ち直し	持ち直しているものの、一服感	↓
住宅建設	減少	おおむね横ばい	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しているものの、一服感がみられる。

7 - 9 月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、合成洗剤等が増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、固定コンデンサや混成集積回路等が減少した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、橋りょう等が減少した。「窯業・土石、その他工業」は、減少した。



- (備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値、最新月は速報値。
 2. 全国及び近畿の太線は中心 3 か月移動平均、直近月は 2 か月平均。
 3. 近畿は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7 月	8 月	9 月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.9	▲0.9	2.1	4.7	▲1.7	0.9
電子デバ、電気・情報通信	18.0	5.1	▲4.0	▲2.1	▲1.0	▲3.7
汎・生産・業務用機械	17.9	5.0	▲2.6	▲9.8	21.4	▲16.8
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	▲5.7	▲0.2	▲4.6	2.2	▲5.0
窯業・土石、その他工業	9.6	0.3	▲1.9	▲2.7	1.8	1.4
鉱工業	100.0	1.9	▲1.5	▲2.1	4.4	▲5.4

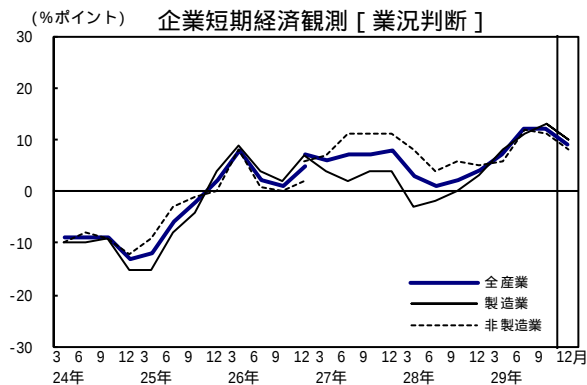
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。

2. 7 - 9 月期、9 月は速報値。

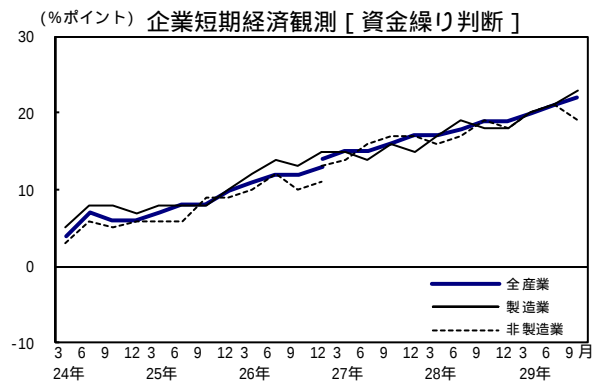
(8) 近畿

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

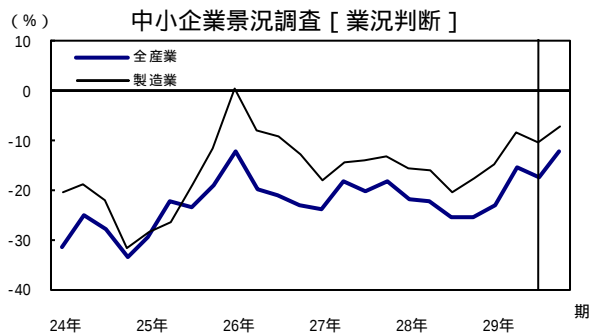
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」- 「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」- 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

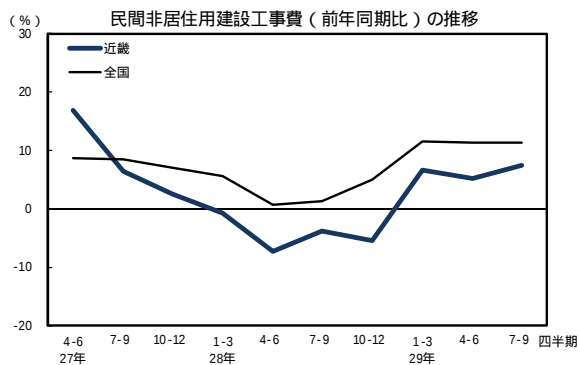


(備考) 「好転」- 「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果) [企業動向関連(現状)]

「受注量、販売量共に、少しずつ右下がりになっている。東京近郊の同業者からは良い声も聞かれるが、一部に限られる。会社全体でみても、受注量、販売量は前年比で約90%となっている(出版・印刷・同関連産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

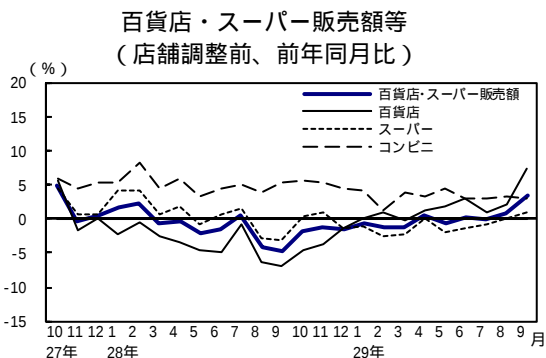
(前年度比、%)

	28年度実績	29年度計画
全産業	2.1	5.1 (0.2)
製造業	7.6	12.8 (1.0)
非製造業	▲1.5	▲0.5 (▲0.5)

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。

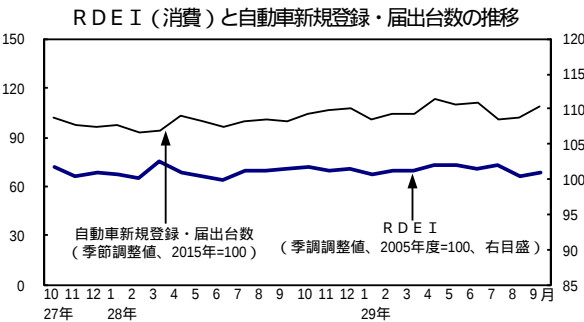
2. 需要の動向

- (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
地域別消費総合指数（RDEI（消費））
7月は前月比0.5%増、8月は同1.5%減、9月は同0.4%増となった。
百貨店・スーパー販売額
百貨店は、7月は、インバウンド需要が旺盛であり、その他の商品や身の回り品が好調だったことなどから、前年を上回った。8月は、インバウンド需要に加え国内向けも好調であり、その他の商品が好調であったことなどから、前年を上回った。9月は、飲食料品が伸び悩んだものの、化粧品、宝飾品等の好調さに加え、秋物衣料が順調に伸びたことなどから、前年を上回った。
スーパーは、7 - 9月期は、衣料品や身の回り品が不調だったことから前年を下回った。
景気ウォッチャー調査（10月調査結果）〔家計動向関連（現状）〕
「今月の客室稼働率は、最繁忙月である8月上回っている。また、レストラン部門の売上も、前年を上回って推移している（都市型ホテル）」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

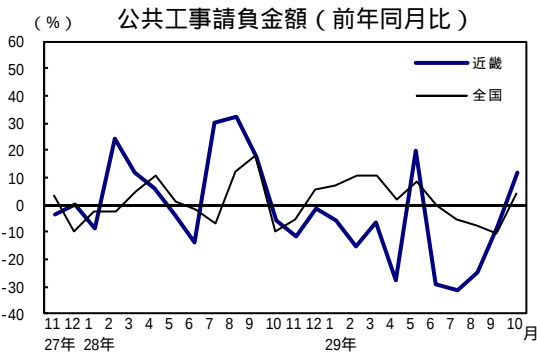
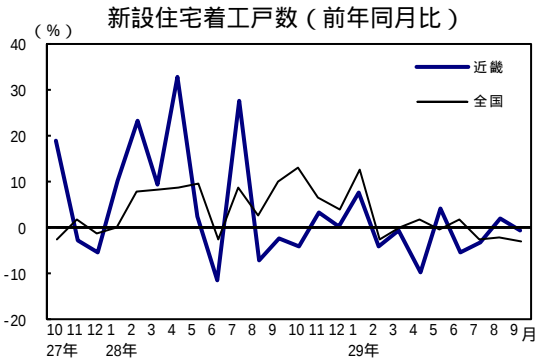


	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI(消費*1)	▲0.7	0.5	▲1.5	0.4
百貨店・スーパー(*2)	1.3	▲0.1	0.8	3.4
百貨店(*3)	3.2	0.9	2.2	7.4
スーパー(*3)	▲0.0	▲0.9	0.1	0.9
コンビニ(*3)	3.1	3.0	3.4	3.0
乗用車(*4)	3.7	1.7	2.3	6.4
(季節調整値)(*4)	▲6.5	▲8.6	1.2	5.9

- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



- (2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばい。
分譲が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。
(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



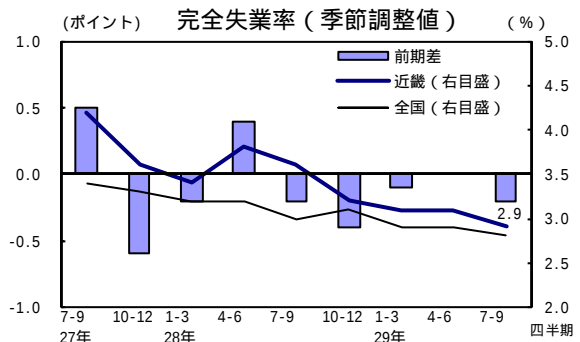
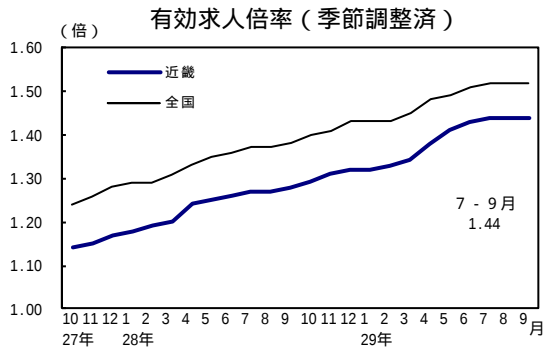
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月調査結果）[雇用関連（現状）]

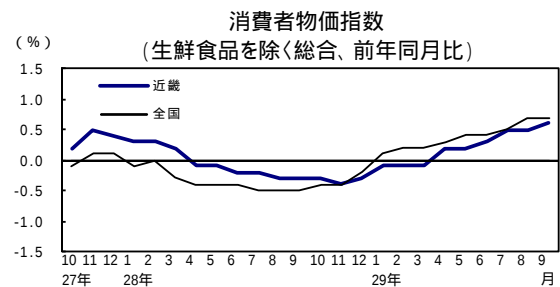
「建設日雇い求人では、人手不足で少しでも人材を確保したい事業所の意向により、求人申込件数が前年比で26.9%増となっているが、景気を左右するような動きはみられない（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	507	506	563	561	190
(前年比)	▲4.5	▲4.0	5.8	9.6	16.6
負債総額	5,794	481	561	570	198
(前年比)	1,110.4	▲49.2	▲5.2	3.7	▲20.0



○ 景気ウォッチャー調査（10月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・新築分譲マンションでは、都心などの高額物件の販売が堅調に推移している。特に、富裕層を中心として、投資目的の購入も含めた活発な動きがみられる（その他住宅[情報誌]）。

<先行き>

・富裕層、インバウンドの好調な購買が継続する。企業業績の好調によるボーナスの伸びも期待できるため、ボリューム層の動きも回復する（百貨店）。

